

サンマ漁海況見通し

(対象:流し網漁船、平成26年7月)

北海道立総合研究機構 水産研究本部 釧路水産試験場

要約

海況(現在の状況)

- 道東沖(北緯 42~43 度、東経 143~146 度)では、南からの暖水(表面水温 15°C)の張り出しが北緯 42 度を越えた(図 1)。この海域では前年に比べて等温線の間隔が狭く、沖合から沿岸にかけて水温が急激に低下する構造が見られた(図 1、2)。前年比で、沿岸は 1°C 低く、沖合は 4°C 高い(図 1、2)。
- この時期のサンマの漁場の指標となる水温 13°C 前後の水温帯は、道東沖に達した(図 1)。

漁況(見通し)

- 調査船北辰丸の漁獲状況からは(図 3、4)、三陸沿岸および沖合(東経 148 度以西)を北上するサンマの分布量は、少ないと考えられる。
- 道東沖の表面水温の状況から、初期の漁場は沿岸寄りに形成されると考えられる。
- 調査での漁獲尾数は少ないものの、調査結果からは、大型魚(体長 29~32cm)と中型魚(体長 24~29cm)が主体になると考えられる(図 5)。

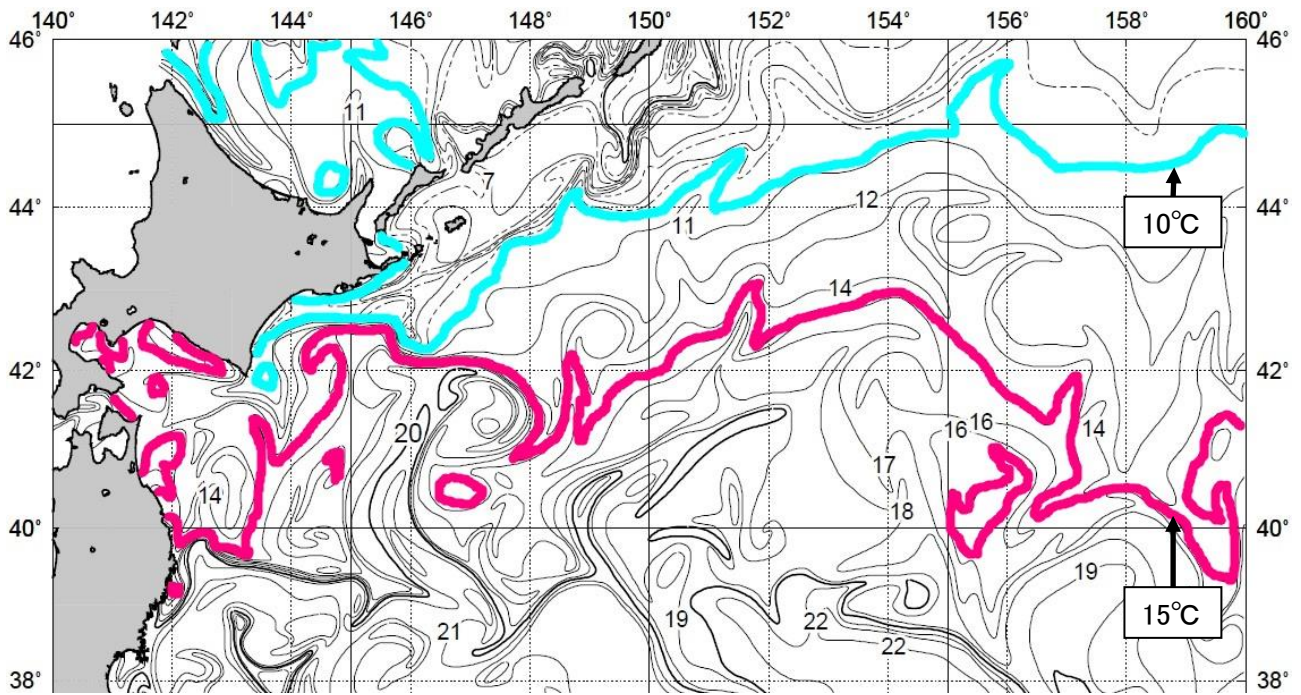


図 1 2014 年 6 月 28 日の表面水温 (漁業情報サービスセンター資料)

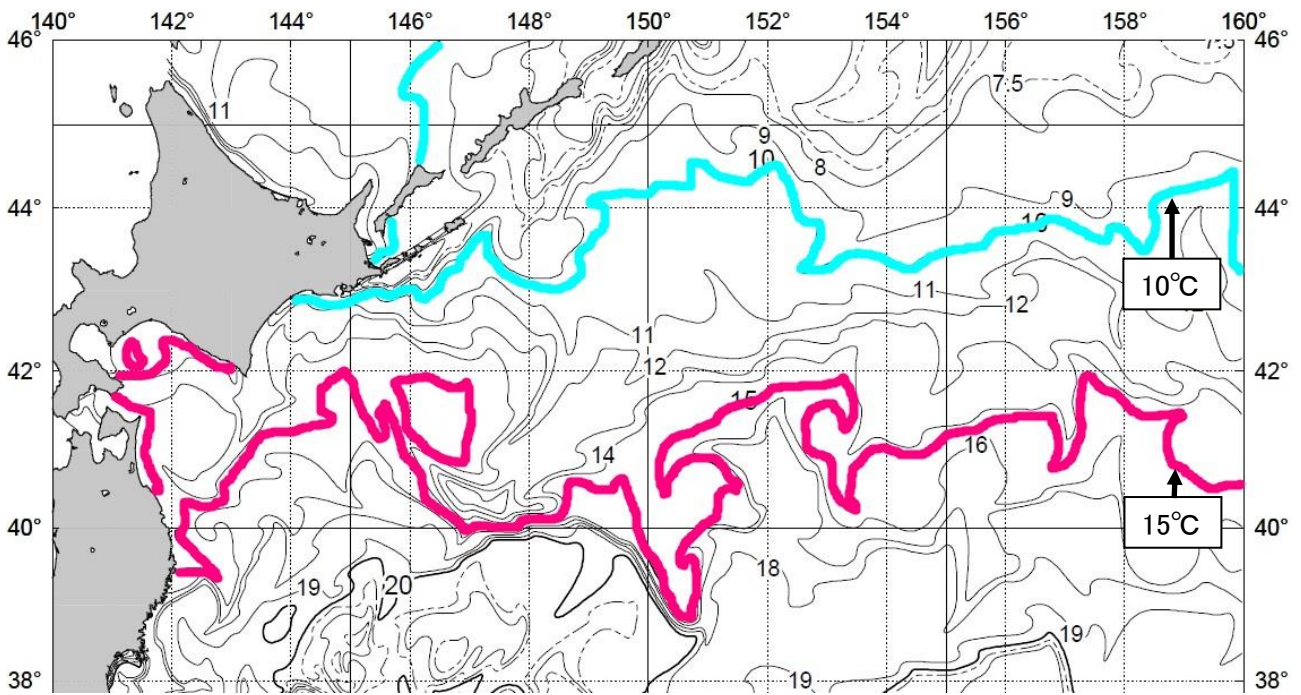


図 2 2013 年 6 月 28 日の表面水温 (漁業情報サービスセンター資料)

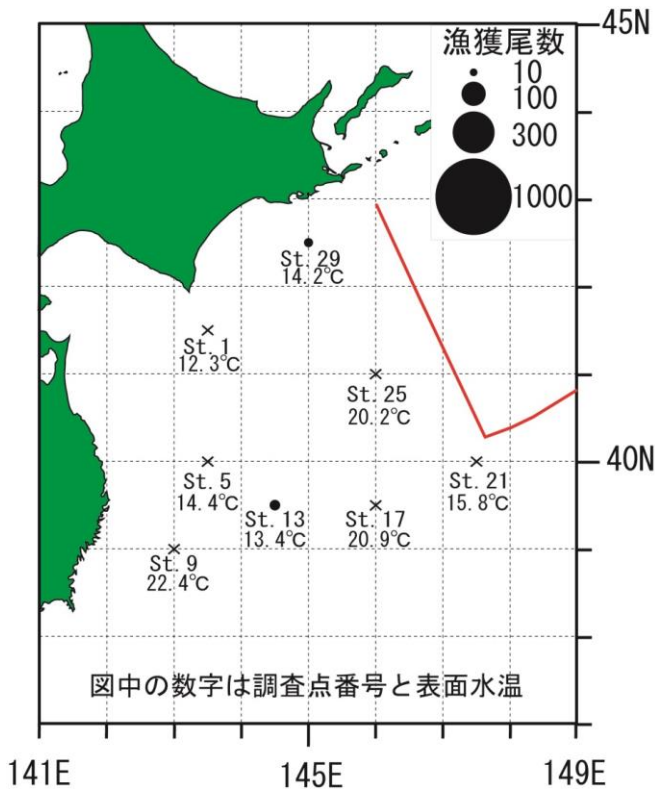


図3 北辰丸によるサンマの漁獲状況(2014年)
 (2014年6月19~27日)

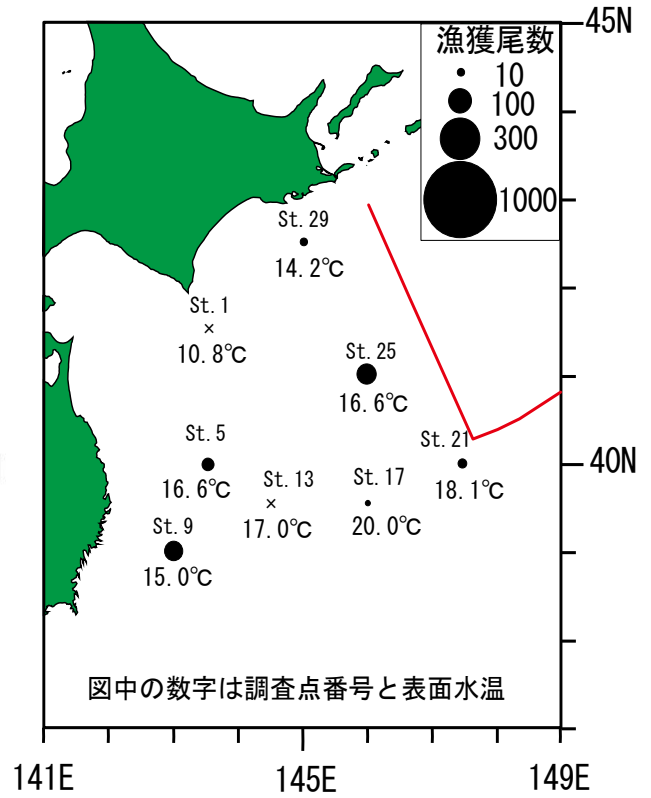


図4 北辰丸によるサンマの漁獲状況(2013年)
 (2013年6月19~27日)

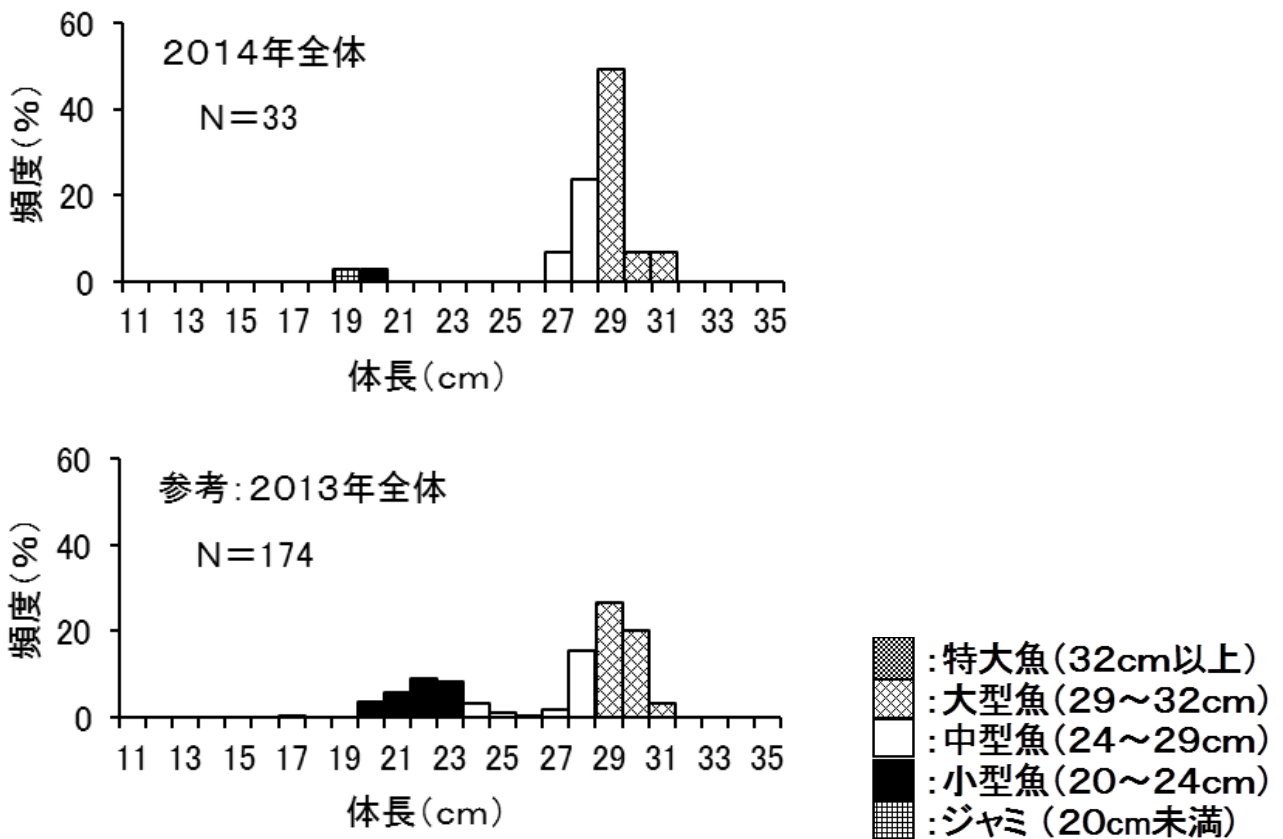


図5 北辰丸で漁獲したサンマの体長組成(上:2014年、下:2013年、Nは漁獲尾数)